

日本英語教育史学会 会報

314

2023 年 4 月 9 日

HiSELT Society for Historical Studies of English Learning and Teaching in Japan

日本学術会議協力学術研究団体 日本英語教育史学会

発行人 日本英語教育史学会 (代表: 田邊祐司)

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562
 県立広島大学 庄原キャンパス 河村和也研究室
 tel: 0824-74-1727 fax: 0824-74-0191
 e-mail: membership@hiset.jp

会費納入口座 (名義人: 日本英語教育史学会)
 ゆうちょ銀行【振替口座】00150-3-132873
 ゆうちょ銀行〇一九店【当座口座】0132873

学会公式ウェブサイト www.hiset.jp

第292回研究例会報告

2023 (令和 5) 年 3 月 18 日 (土), 第 292 回研究例会が Zoom を用いたオンラインの形態により開催されました。参加者は 43 名でした。

例会では 2 つの研究発表が行われました。最初の研究発表では、惟任泰裕氏 (中九州短期大学) が「長谷川清『自己表現の歴史と理論』の英語教育史上における位置」というタイトルでお話しされました。続いての「自著を語る」では、指定討論者に上野舞斗氏 (四天王寺大学) を迎え、著者の江利川春雄氏 (和歌山大学名誉教授) が『英語と日本人—挫折と希望の二〇〇年』(ちくま新書, 2023 年 1 月) について発表が行われました。司会は藤本文昭氏 (横浜翠陵中学・高等学校) でした。以下に参加者の感想を掲載しますのでご参照ください (①は惟任氏, ②は江利川氏及び上野氏の発表への感想, ③は会全体に対する感想です)。

<発表 1 の感想>

- ◆ご発表ありがとうございました。表現は異なるかもしれませんが、長谷川の主張にはパーマ一の (オーラルメソッドの) 理論と共通する部分も多く含まれるように感じました。両者の主張の相違点がどこにあるのか興味がわきました。また資料の「青森県立商業学校で教鞭を執った自己への批判」(p.8) とあることから長谷川の指導と当時の青森県立商業学校の生徒の実態とに乖離があったことが想起されましたが、長谷川が青森県立商業学校で行ったのは受験中心の指導だったのでしょうか。(Koyamamoto)
- ◆詳細な研究で、勉強になりました。(外山徹)
- ◆日本語の綴り方教育の影響が、英語の自己表現教育にあったということが、興味深かった。(井田秀穂)
- ◆何度か読んだ大先輩の業績を、改めて客観的な立場からの分析で見直すことができました。まだまだ学び尽くしていないのかもしれないと、襟を正されるような思いで拝聴しました。ありがとうございました。(池田真澄)
- ◆内容の濃い、素晴らしいご発表でした。長谷川清の自己表現論は一種の生活綴り方運動であり、エリート主義やスキル主義への批判を含意しているというご指摘には感服しました。現在でも通じる視点と実践だと思えます。自己表現を英語教育史の中で位置づけるには、たとえばラフカディオ・ハーンが明治 23-24 年に島根県の中学校で実践した事例を始め、日本での自由

英作文の指導（教授法）との関連を追究してみたいかでしょうか。また、長谷川の自己表現論が『新英語教育』に掲載され始めた 1973 年には、大修館書店の『英語教育』6 月号でも特集「英語による自己表現」を組んでいます。偶然とは思えませんので、たとえば日本企業が「国際化」（海外進出）を深めた 1970 年代の社会的文脈の中に発信型英語教育（いわゆるコミュニケーション重視）としての自己表現活動を位置づけることができないか、などの考察をさらに深めていかれると面白いのではないのでしょうか。（みかん舟）

<発表 2 の感想>

◆江利川先生の豊富な知識とご経験、上野先生の的確な討論及び司会進行により、出版をめぐる裏話から英語教育をめぐる本質論に至るまで示唆に富むかつエンタメ性の高いお話を聞くことができ、とても楽しい時間を過ごすことができました。オンライン形式でこれほど盛り上がった討論を聞くことができたのは初めてかもしれません。ありがとうございました。

(Koyamamoto)

◆たくさんの知見とこれからの英語教育について考えるきっかけとなりました。（外山徹）

◆江利川先生のご発表を拝聴し大変勉強になりました。ご高著も拝読し、また新たな目で日本の英語教育史を見つめて直してみたいと思います。（広川由子）

◆大学入試制度の歴史を勉強している者ですが、英語の学習法については昔から同じことの繰り返しであったんだなと。駿台で伊藤和夫先生から直接英語構文の授業を受けていたものから直読直解の方法としては伊藤を凌ぐものは今もないと感じています。（比嘉良太）

◆小学校で教える英語専科教員の養成を、文科省が真剣に考えるべきであると感じた。英語嫌いの小学生を増やすのは、深刻な社会問題だと感じる。（井田秀穂）

◆とても読みやすくいい意味で飲み屋談義風、縦横無尽に行ったり来たりしながら、現代の課題がどんな歴史的背景からきてどこに向かうべきかが示されているというのが拝読した時の感想です。今日は上野さんの質問で、研究に裏付けられた成果をどう構成するのか緻密に工夫して書かれたことがよくわかりました。ありがとうございました。（池田真澄）

◆英語と日本人というタイトルをなぜつけられたのか、というお話しから始まり、現在私達を取り巻く様々な課題を取り上げていただき、大変勉強になりました。特にいびつな英語偏重の状況を打破するための、多言語教育の視点は、とても大切だと思います。（大橋勉）

◆とても勉強になりました。歴史に真摯に向き合う謙虚な姿勢、自分も取り入れたいです。

(Trevor)

◆歴史的論考は大変勉強になりました。感謝申し上げます。教育課程の問題・課題・矛盾の議論としては、教育政策の観点だけでなく、教授学習の観点から議論も必要と考えております。江利川先生のご指摘「辞書と文法書が読めて、後で必要な時に自学自習できる素地・・・」はまさに、70 代の私の英語学習に当てはまるですが、そのプラスとマイナスで葛藤しております（英語圏の大学院で 5 年間の勉学経験があるのですが、「読むこと（書くこと）」と「聞くことと話すこと」のギャップで苦勞しております）（板垣信哉）

<会全体に対する感想>

◆とても良い雰囲気でした。良かったです。ありがとうございました。（外山徹）

- ◆非会員で参加させていただき、ご迷惑をお掛けして申し訳ございませんでした。懇親会は出先のため参加できません。すみません。(羽藤りえ)
- ◆こんなに素晴らしい研究例会にもかかわらず参加者が少なくて、もったいないなと感じました。(比嘉良太)
- ◆アットホームな運営で楽しく参加させていただき、ありがとうございました。(池田真澄)
- ◆会員とほぼ同数の非会員の方が参加してくださり、学会の発展・普及にとっても一つの手応えを感じました。(みかん舟)
- ◆とても良かったです。(Trevor)

発表を終えて

惟任泰裕氏 (中九州短期大学)

今回の例会では、「長谷川清『自己表現の歴史と理論』の英語教育史上における位置」と題した発表を行いました。戦後、岡山県の高等学校の英語教師であった長谷川は、「英語・英文学の研究を土台として置きつつ、民間教育研究団体にも精力的に参加し、英語教育における教科指導と生活指導の統一を目指した」(惟任, 2011) 人物です。長谷川が1973年に出版した自伝的著作である『学校に灯をともし』は、私たちに勇気づけてくれるとても優れた本なので、多くの方に読んで欲しいと思っているのですが、今回は、長谷川が『新英語教育』誌上で連載した論考の内容を検討して発表しました。ここにおいて、私が特に心惹かれたのは、長谷川が歴史的な認識のうえに立って教育実践を行おうとしたことです。歴史的視座において現在をどのように捉えるかということは、今日にも通じる普遍的な課題であり、長谷川の論考は、現代的な問題意識をもった英語教育史研究の大切さを教えてくれているように思います。最後になりましたが、示唆に富むコメントや情報提供をくださった先生方(史料を送ってくださった先生までおられました)に改めて感謝申し上げます。

発表を終えて

江利川 春雄 (和歌山大学名誉教授)

例会で拙著『英語と日本人：挫折と希望の二〇〇年』を取り上げて頂き、上野舞斗先生が本質を突く鋭い質問によって討論をリードしてくださったことに心から御礼を申し上げます。

①「英語と日本人」と英語を先に出した理由は、幕末に「英語」が襲来してから敗戦占領下での英語教育義務化に至るまで、主導権は英語の側にあり、日本人は英語への対応に追われてきたからです。

②副題を「挫折と希望」とした理由は、日本の英語教育(特に政策)はいま絶望的な状況であり、絶望の先には希望しかないからです。「憧れと挫折の」という提案も受けましたが、私は次世代のために何としても希望あふれる外国語教育を届けたいと奮闘してきましたし、その願いは変わりません。

③「本書の仮想敵」は、第一に歴史から学ぼうとしない英語教育政策立案者。第二に理不尽な英語教育政策に異議を唱え行動しない英語教育関係者。日本人が外国語を学ぶ意味を再考する契機になれば幸いです。

発表を終えて

上野 舞斗 (四天王寺大学)

この度は指定討論者の機会を与えてくださり、深くお礼申し上げます。本書は新書ではありませんが、幕末から令和までの約 200 年に及ぶ英語学習史が描かれた大著です。著者の江利川春雄先生に伺った質問をいくつか掲載いたします。(1) なぜ本書のタイトルは「日本人と英語」ではなく「英語と日本人」なのか。(2) 副題はなぜ「挫折と希望」なのか。(3) 本書の「仮想敵」は何／誰か。

頂いた回答、議論の一つひとつに江利川先生らしさを感じました。歴史に学び、「200 年」の歩みの中に現在を位置づけ(第 5 章のページ数が最も多い)、未来を展望しようとする本書は、「憧れと挫折」ではなく正に「挫折と希望」を描いた書籍であるといえます。

形式的には「指定討論」でしたが、フロアの皆さまにも討論に自由に参加していただくことを目指しました。しかし、指定討論者の時間配分がまずく、「これから」というところで、時間切れとなってしまいました。謹んでお詫び申し上げます。続きは『英語と日本人: 挫折と希望の二〇〇年』を手にとっていただき、読者それぞれの視点から「挫折と希望」の足跡を追体験し、その意味・価値を判断いただきたいところです。

)> 事務局より

)> 2022 年度第 2 回定例理事会を開催

2023 年 3 月 30 日(土)19 時より Zoom を用いてオンラインによる理事会が開催され、以下の件が話し合われました。

1. 第 39 回全国大会(神奈川大会)について

→実行委員長の提案を受け、運営の詳細およびプログラムを確定しました。詳細は学会ウェブサイトに掲載されます。

2. 2022 年度会計について

→事務局より中間報告をしました。年度末処理ののち、会計監査を経て 5 月の会員総会で最終的な報告をします。

3. 紀要第 38 号について

→編集・発行の進捗状況について確認しました。例年通り 5 月に刊行の予定です。

4. 役員体制について

→選挙管理委員会からの報告を受けました。

5. 著作賞について

→選考委員会からの報告を受けました。詳細は 5 月の総会で発表されます。

6. その他

→新年度の研究例会について:

研究例会について、当面はオンラインでの開催とすることを決めました。また、開催の日程を確認しました。

》》 名簿原票の返送について

会員台帳の情報を更新するため、4月中旬をめどに、すべての会員のみなさまに「名簿原票」を郵送します。電子版会報の受け取りにご協力くださっているみなさまにもお送りしますので、必ず開封のうえご確認ください。お忙しい時期にお手を煩わせることとなり恐縮ですが、よろしくご協力ください。

なお、会費の未納分がある方には「会費納入のお願い」もしくは「会員継続のご案内」を同封させていただきます。会計処理の不手際により、事務局からのお願いが遅れたみなさまには、この場をお借りしてお詫び申し上げます。引き続きのご協力をお願い申し上げます。

》》 2023 年度の紀要と会費について

全国大会にお越しの方には、受付にて紀要をお渡しします。会場での現金の取り扱いを減らすため、当日は会費をお納めいただけません。「会費納入のお願い」をお渡ししますので、お手数をおかけしますが後日ご送金ください。

全国大会にお越しにならない方には、終了後に事務局より「スマートレター」で発送します。その際、新年度分の「会費納入のお願い」を同封しますので、よろしくご協力ください。なお、前年度(2022年度)までの会費が未納の方には紀要はお送りせず「会費納入のお願い」のみを郵送します。

現在、会員名簿は発行していませんが、ご希望の方には会員台帳から出力したものをお送りしますので、「名簿原票」確認の際にお申し付けください。

紀要に論考が掲載された方には抜刷をお送りします。印刷会社に発送を依頼しており、事務局からお送りする紀要の本冊よりも早く届きますのでご承知おきください。

(文責：事務局)

日本英語教育史学会第 39 回全国大会 (神奈川大会) ぜひご参加ください

第 39 回全国大会 (神奈川大会) は、「ハイフレックス」で開催いたします。皆様どうぞ奮ってご参加ください。久しぶりの対面、またはオンラインでお目にかかれますことを楽しみにしております。

期 日 2023 年 5 月 20 日 (土)・21 日 (日) ※20 日 (土) は午後からの開催

会 場 【対面】神奈川大学 みなとみらいキャンパス 1F 米田吉盛記念ホール

【オンライン】Zoom

参加費 会員・学生：無料 一般 (非会員)：1,000 円

◆ プログラム

先の会報でお知らせしました通り、20 日 (土) には中島平三先生による記念講演「梯子を外される前に英語教育史を」があります。「実用主義と教養主義との間の右往左往」からの脱却を目指した、貴重なお話をいただける予定です。研究発表を含むプログラムの詳細につきましては、学会

ウェブサイト (<http://hiset.jp/>) をご覧ください。なお、時間を含む詳細を記したプログラムの確定版は 4 月中旬頃に学会ウェブサイトに掲載される予定です。

◆ 参加方法

学会ウェブサイト (URL 上記) からの申し込みとなります。詳細につきましては、会員の皆様にメールにてお知らせいたします。

◆ お問合せ

下記のメールアドレスまで、お気軽にご連絡ください。

大会実行委員会 taikai@hiset.jp

>> この先の研究例会

- | | | |
|---------------|----------------------|---------|
| ◆ 第 293 回研究例会 | 2023 年 7 月 15 日 (土) | オンライン開催 |
| ◆ 第 294 回研究例会 | 2023 年 9 月 16 日 (土) | オンライン開催 |
| ◆ 第 295 回研究例会 | 2023 年 11 月 18 日 (土) | 検討中 |
| ◆ 第 296 回研究例会 | 2024 年 1 月 20 日 (土) | 検討中 |
| ◆ 第 297 回研究例会 | 2024 年 3 月 16 日 (土) | 検討中 |

→日程や場所は変更される場合があります。その際は会報およびウェブサイトでお知らせします。

研究例会での発表希望者は、(1) 発表希望月、(2) タイトル、(3) 発表概要 (100~200 字程度)、(4) 使用予定機器、の 4 点を明記の上、発表希望月の 3 ヶ月前の 10 日 (11 月発表希望であれば 8 月 10 日) までに日本英語教育史学会例会担当へお申し込みください。

Email: reikai@hiset.jp

>> 新入会員

- ◆ 堀 由紀 (ほり ゆき) 神奈川県 こども英語教室経営
- ◆ 小林 竜一 (こばやし りゅういち) 埼玉県 江戸川学園取手高等学校

EDITOR'S BOX 日数はそれなりにあったはずなのに、気がついたら春休みが終わってしまい、新年度に入ってしまいました。／個人的には「まだ準備ができていないのに・・・」という気持ちです。／私の勤務する大学では、新入生ガイダンスや授業は、新型コロナウイルス流行前と同じように、座席指定等のない対面で行われました。／一方で、重要な個人情報のやりとりを含まない会議は、コロナ流行時と同様に Zoom が活用されています。／また、在学生ガイダンスのような大人数の会合も、Zoom を使ってコース別に教室を分けて行われるようになりました。／新型コロナウイルスの流行を経験して、「生活が変わったんだ」と感じる場面の一つでした。／新型コロナウイルスは本当に厄介です (しかもまだ全然油断できません) が、もし感謝できることを強いて挙げるとしたら、会議の多くがオンラインに移行し、在宅勤務を可能にしてくれたことです。この部分だけはコロナ以前には戻って欲しくないのですが・・・。(若)